

水やり係 (3年)

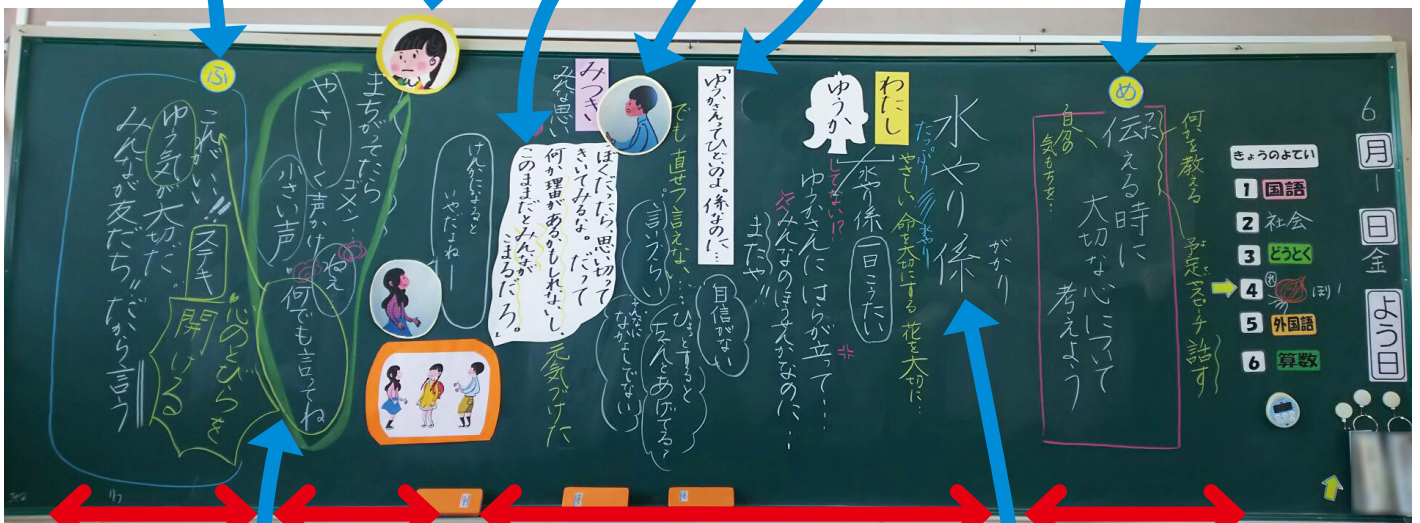
板書の工夫

あらかじめ、授業の中で重要な場面の挿絵や言葉を準備しておく。子どもたちは、「貼る」という行為だけでも注目する。特に挿絵を提示すると、それだけでその場面を想起できる。

「めあて」「振り返り」など、毎授業で使う学習用語は、あらかじめ記号(アイコン)として提示できるものを用意するとよい。

何の発問に対するまとめなのかがわかるよう、登場人物の顔を貼ったり、囲んで区別したりする。

「振り返り」のアイコン。



教材名の提示。

子どもたちが特に大切だと意識した言葉は、囲むなどして目立つようにする。

板書の流れ

- 1 「めあて」は初めに提示する。教科書のとびき「考えよう」を参考に、クラスの子どもたちに合った言葉にして示す。導入で「めあて」を活用し、「『伝える』って、どういうことかな」という投げかけをして、その反応を板書し、「伝える」という行為のイメージを共有する。【3～4分】
- 2 教科書を範読して、教材の道徳的な問題場面を確認する。「わたし」の人柄と、「わたし」の「ゆうか」に対する思いや考えを押さえる。子どもたちの発言の中の言葉を、子どもの思いをゆがめないよう注意しながら、キーワードとして抜き出す。【10分】
- 3 授業では、「ゆうか」を教師が、「わたし」を子どもが演じ、「ゆうか」がどんな言葉をかけたかを考えさせる。子どもが演じるときに言う言葉から、キーワードになりそうなものを板書する。話し方、声のトーン、相手との距離など、言葉だけでなく、いろいろな要素に目を向けるようにする。子どもたちがさらに考えを深められるよう意識し、教師は、適宜、確認のため読み返すなどするとよい。【19分】
- 4 本時の振り返り。振り返りの前には、「めあて」を再確認し、「今日は、このことを考えたんだよ」ということを子どもにしっかりと意識させる。ワークシートに記入する時間を子どもたちと相談し（だいたい7～8分）、机間指導をしながら、意図的指名をする子を決めておく。「仲よしでなくても、『みんなのハウセンカ』のことを思って、きちんと理由を言うべき」など、多様な意見が出るようにする。交流の時間は必ず確保し、考えが深められるようにしたい。【12分】